

オープンバッジについて

本学では、2023年度から、一般財団法人オープンバッジ・ネットワークが発行するオープンバッジを導入しています。

(1)発行対象

対象者：本学の正規課程に在学中の者（非正規生は対象外）

対象プログラム：特別教育プログラム等

(2)申請方法

プログラム修了者全員にオープンバッジが発行されます。プログラム担当部局（学部・研究科等）で修了者の取りまとめを行います。
発行までの手続きについては、スライド2以降をご参照願います。

★オープンバッジとは

オープンバッジとは、獲得した知識やスキルを証明する、国際技術標準規格のデジタル証明書です。ブロックチェーン技術を取り入れており、偽造や改ざんが困難であることから、信頼性の高い証明書として国内外の大学や企業等で普及が進んでいます。

オープンバッジは1クリックで簡単に各種SNSへの投稿や、画像のダウンロードが可能です。SNSへ投稿したり、ダウンロードした画像をメール署名欄や履歴書に貼り付けたりすることで、自身の知識やスキルをアピールしましょう。

【オープンバッジの詳細情報】

一般財団法人オープンバッジ・ネットワークHP <https://www.openbadge.or.jp/>

オープンバッジウォレットのご利用ガイドならびに受領方法等を説明した動画 https://www.netlearning.co.jp/guidance/ob_wallet/jp/help.html

【受領・内容確認方法等に関するご質問】

オープンバッジ受領、内容確認方法、アカウント作成方法等に関するご質問は、以下の問い合わせフォームよりお問い合わせください（提供元：株式会社LecoS）

https://www.lecos.co.jp/contact_recipient/

オープンバッジ発行から受領完了までの流れ

★各種案内メールが **OpenBadge <noreply_openbadge@netlearning.co.jp>** より **Microsoft365 : Outlook (～@shizuoka.ac.jpのメールアドレス)に届きます。** (メールの転送設定をしている場合は、転送先のアドレスへ上記案内が届きます。)
受信拒否設定等しないようお願いいたします。

バッジ発行

プログラムの修了者に、オープンバッジを発行します。

①メール1通目 受信

ご登録のメールアドレスに「**オープンバッジ授与のお知らせ**」というタイトルのメールが届きます。

メールを受け取った人は、メール本文にある

受領手続きをはじめる

ボタンをクリックして、「②ウォレットアカウント作成」を行ってくだ

②ウォレット アカウント作成

はじめてオープンバッジを受領する場合は、オープンバッジを保管する「**オープンバッジウォレット**」のアカウント登録が必要になります。
「オープンバッジウォレットアカウント」登録には、「**氏名**」と「**パスワード**」が必要です。(スライド3 -STEP2・STEP3)
登録完了すると、オープンバッジウォレットにログインできます。(スライド3 -STEP4)
※2個目以降は、各自のオープンバッジウォレットから未受領バッジを確認及び受領できます。

③メール2通目 受信

①の後、通常、数時間～1日後に「**オープンバッジ発行完了のお知らせ**」というタイトルのメールが届きます。
オープンバッジウォレットにログインして(スライド3 -STEP4)、受領したオープンバッジをご確認ください。

オープンバッジ 受領完了

メールの受信から「オープンバッジウォレット」アカウント登録まで

STEP1 ボタンをクリック

オープンバッジ授与のお知らせ



OpenBadge <noreply_openbadge@netlearning.co.jp>

当メールは、一般財団法人オープンバッジ・ネットワークからのオープンバッジ授与に関するお知らせをするものです。

[受領手続きをはじめる]ボタンをクリックして、14日以内にバッジを受け取ってください。

一般財団法人オープンバッジ・ネットワークよりオープンバッジが授与されました。

このオープンバッジは、ブロックチェーン技術を取り入れた、改ざんを防ぐ強固な証明書です。



テストバッジ

1.オープンバッジの受領方法

※受領にはオープンバッジウォレットのサービス利用登録が

受領手続きをはじめる

クリック

①受領手続き開始

上記の[受領手続きをはじめる]ボタンを、本メールの送信日より14日以内にクリックしてください。受領手続き(ブロックチェーンへの書き込み)が始まります。

STEP2 アカウント登録

アカウント登録

オープンバッジサービスをはじめご利用の方は、ご自身のオープンバッジを個人で管理するためのLecoSアカウントの登録が必要です。下記の項目を入力し、利用規約に同意のうえ、確認ボタンをクリックしてください。登録されたメールアドレスがLecoSのユーザーIDになります。

※ *の項目は入力必須です。

fabibibu@cream.pink

「氏名」と「パスワード」を入力

名 (例) 太郎 *

0 / 15

姓 (例) 山田 *

0 / 15

パスワード *

パスワードは8~20文字の、英語の大文字、英語の小文字、数字、および特殊記号の2つ以上の組み合わせで設定してください。[!@#\$%^&*+=]

パスワード(確認用) *

☐ 株式会社LecoSの利用規約に同意する。

[利用規約はこちらをご覧ください。](#)

確認

すでにLecoSアカウントをお持ちの方は [こちらからログイン](#)

STEP3 アカウント認証

Subject: オープンバッジサービス 仮登録のお知らせ

オープンバッジウォレットにアカウントをご登録いただき、ありがとうございます。
以下のメールアドレスにお間違いがなければ、[登録完了]ボタンをクリックしてください。

登録完了

クリック

アカウントの登録を完了させるには、本メール送信から24時間以内に、[登録完了]ボタンをクリックしてください。

上記指定時間を過ぎた場合は、メール件名「オープンバッジ授与のお知らせ」から再度操作をやり直してください。

※ 当メール内容にお心当たりのない方は、メールを破棄いただけますようお願い申し上げます。

※ 当メールは、配信専用の自動配信システムより送信しています。お問い合わせに関しましては、以下に記載されている問い合わせフォームからご連絡ください。
当メールアドレスへ返信いただいても回答いたしかねますので、予めご了承ください。

※ ブロックチェーン型オープンバッジは受領の操作をした翌日に発行が完了し、ウォレットに表示されます。
バッジが表示されるまでお時間がかかりますので、あらかじめご承知おきください。

STEP4 ログイン



ログイン

LecoSのアカウントを入力してください。

メールアドレスを入力

☐ ログイン状態を保持する

次へ

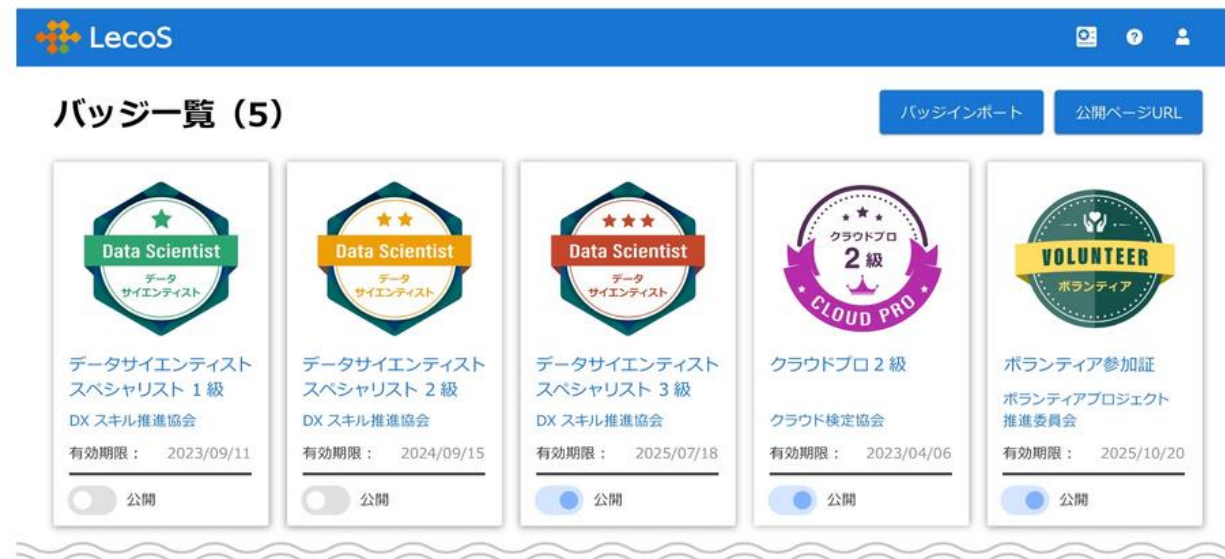
オープンバッジウォレットについて

オープンバッジウォレットとは、バッジ保有者がウェブ上でバッジをためておく入れ物のことです。

ウォレットにログインすると、以下のサービスが利用可能です。

- ・受領したバッジを一覧で管理
- ・バッジを外部（第三者）へ公開
- ・バッジをSNS等で共有

オープンバッジウォレット画面イメージ ※こちらに掲載の各種オープンバッジはサンプルイメージです



バッジをクリックすると詳細が表示されます。



本学におけるオープンバッジ発行対象プログラム

静岡大学防災マイスター

[編集](#)

発行者

国立大学法人静岡大学



作成日

2024/02/02

説明

静岡大学防災マイスターは、一定レベルの防災知識を備えた学生を養成して社会に送り出すために2011年度に立ち上げられた。本制度では、静岡県でとりわけ危惧される南海トラフ地震をはじめとする自然災害に対する科学的な知識を有し、それに基づいて災害時に自己や他者の生命と災害後の生活を守る上で有用な最低限の防災知識・スキルを獲得することを目標とする。また、教育学部にあつては、それを学校安全の推進に活用できる能力を獲得することを目標としている。本制度は、防災総合センターが中心となり、所定の科目を履修し授与を申請した学生に防災マイスター称号を与えるものであり、静岡キャンパスで先行して実施され、2022年度までに139名が「静岡大学防災マイスター」の称号を得ている。なお、2012年度より称号取得者が一定条件を満たすことによって、静岡県知事認証「静岡県ふじのくに防災マイスター」の称号を取得することが可能になり、2022年度までに130名が称号を得ている。バッジの形は、防御を示す盾を表し、背景の色調は静岡大学のスクールカラーである。中央は、噴火の恐れのある富士山を表している。

取得条件

履修対象科目のうち、必修科目4単位、選択必修科目4単位以上、選択科目4単位以上の合計12単位以上の取得と、修了レポートの提出・合格が認定条件となる。認定条件を満たしたのち、「静岡大学防災マイスター称号授与申請書」を提出する。

知識・スキル

南海トラフ地震などの自然災害に対する科学的知識を有し、それに基づいた防災知識・スキルを獲得できる。

地域づくり特別教育プログラム

[編集](#)

発行者

国立大学法人静岡大学



作成日

2024/02/02

説明

静岡大学では、学生の所属学部や学科等における専門性の視点から、地域課題の解決に取り組む人材の育成を目的とした「地域づくり特別教育プログラム」を設置しています。講義では、地域課題の解決に資する様々なアプローチを習得する専門科目群とともに、実践的な調査手法や実施体制の組織論等を学びます。実習では、活動内容の異なる複数のフィールドワーク協力団体のもと、実際に展開している活動に自らを置くことで、計画力や自己管理能力、社会性など、実社会で必要な地域課題解決能力を修得していきます。

取得条件

必要単位数 14 単位の修得・選択必修【1】（概論・課題発見）2 単位・選択必修【2】（調査法等）2 単位・選択必修【3】（学外実践）2 単位・選択（専門性）8 単位以上

知識・スキル

地域課題の解決に資する様々なアプローチ

実践的な調査手法や実施体制の組織論

計画力や自己管理能力、社会性など、実社会で必要な地域課題解決能力

実践データサイエンス力育成プログラム

[編集](#)

発行者

国立大学法人静岡大学



作成日

2024/03/08

説明

本プログラムでは、国が推奨しているデータサイエンティストの育成を目指す。データサイエンティストには、データサイエンス力、データエンジニアリング力、ビジネス力が必要とされている。そのうち、データサイエンス力を磨くことに重点を置く。そのために、微分積分学、線型代数学に加え、統計検定2級程度の知識が得られる統計数理学からなる科目群と実践的な素養を獲得することを目的とした情報系企業の講師陣による講座などにより、プログラムは構成されている。その講座を通して、企業におけるデータサイエンティストの役割や仕事内容を理解し、データサイエンティストのイメージを持つ機会が得られる。本プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の認定を受けており、静岡大学における同名の特別教育プログラムでもある。

取得条件

指定された科目表から、本プログラムの必修科目7単位、選択必修科目8単位以上、合計15単位以上を修得する。

知識・スキル

文部科学省認定制度における応用基礎レベルの学習内容をカバーし、実践力を身につけている

微分積分学、線型代数学に加え、統計検定2級程度の知識を得ている

データサイエンティストのイメージを身につけ、企業における役割や仕事内容を理解している

数理データサイエンスAI教育プログラム（応用基礎レベル）

[編集](#)

発行者

国立大学法人静岡大学



作成日

2024/03/08

説明

情報学部では、数理データサイエンスAI教育プログラムを設置している。本教育プログラムの目的は、数理・データサイエンス・AIに関する知識および技術について体系的な教育を行い、基礎力から実践的応用力までを身につけさせることである。本教育プログラムは文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」の認定を受けており、所定の単位を修得してプログラムを修了した学生は修了証を受け取ることができる。3学科全ての学生が対象であり、自学科向けの対象科目を適切に選んで履修すれば無理なく修了できるようデザインされている。近年、社会のあらゆる領域で数理・データサイエンス・AIに関する実用的知識とスキルが求められており、この傾向は今後も強まると予想されることから、本教育プログラムを修了しておくことは就職活動などで優位に働くと考えられる。

取得条件

【修了要件1】（情報科学科に対応）34単位：必修14科目25単位+選択9単位【修了要件2】（行動情報学科に対応）37単位：必修17科目31単位 + 選択必修1科目2単位 + 選択4単位【修了要件3】（情報社会学科に対応）25単位：必修9科目15単位 + 選択5科目10単位

知識・スキル

数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決するための実践的な能力

データから意味を抽出し、現場にフィードバックする能力

自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための大局的な視点

産業イノベーション人材育成プログラム

[編集](#)

発行者
国立大学法人静岡大学



作成日

2024/03/08

説明

本プログラムは、静岡大学大学院総合科学技術研究科が、地域の人材ニーズに応えるために平成30年度に浜松キャンパスに新設した修士課程学生を対象とする付加価値型の教育プログラムである。総合科学技術研究科工学専攻及び情報学専攻在籍の学生が、自分のコース（専門分野）での履修に追加する形で、この教育プログラムを履修し、所定の要件を満たした場合に修了認定される。現在、産業界では、何を学んだかと同時にそれらをいかに現実の問題に応用できるのかを重視しており、現物に対峙し実際の「モノ・コト」に触れながら、主体的に課題を解決する経験を積んだ人材が求められている。これに加えて、社会人基礎力（「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力）も有することが重要である。浜松地域は日本屈指の製造業集積地であり、世界のモノづくり拠点として、光産業、IT産業や農業とIT技術の融合等、技術イノベーションが期待されており、これらのニーズにこたえる形で、これまで培ってきた工学系・情報学系人材養成の基盤となる各コース（機械工学、情報科学等）の教育体系を守りつつ、もっと実践的な経験を通して学びたい、社会で活躍したいというやる気のある学生のために用意する特別なプログラムとなっている。各コースの専門分野の知識に加え、論理的な思考に基づいてチームワークよく仕事を進め得る資質を持ち、失敗を恐れず、自ら課題解決に向かっていける力を身につけた人材の育成を目指している。

取得条件

以下の1, 2の条件を満たして単位を修得することが要件となる。

1. 指定科目の履修各専攻・コースの対象科目の中から6単位以上取得すること。ただし、他専攻の科目を2単位以上取得すること。
2. プログラム専門科目の履修・産業イノベーション創造演習・産業イノベーション特論・産業イノベーションフィールドワークA（長期）またはB（短期）

知識・スキル

「モノ・コト」に触れながら、主体的に課題を解決する能力

専門の異なる人物とチームを組み、論理的思考に基づきチームワークよく仕事を進める能力

社会人基礎力（「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」）

「教育の現代的課題」科目群

[編集](#)

発行者
国立大学法人静岡大学



作成日

2024/03/08

説明

社会の変化に伴って、子どもたちに求められる資質・能力は日々変化している。学校教育もまた、子どもの生活や心身の課題、地球規模的教育的課題、教育におけるICTの活用や学習環境の課題など、これまでにない様々な課題に直面している。「教育の現代的課題」科目群は、こうした社会の変化に伴って生じる、容易に解決することが困難な教育の諸課題に対応することができる、教員としての資質・能力を養うことを目指すプログラムである。「教育の現代的課題」がゆるやかな5つの「系」に整理され、学生が各自の関心・問題意識をもとにいずれかの「系」にエントリーし履修計画を立てて自ら学びを進めていく。各「系」には特に関連の深い複数の学問分野に基づく科目が専攻・専修の枠を超えて配置されており、学生は「系」の内外での学びを通して、自らの専攻・専修で養われる専門性を相対化するとともに、異なる専門性を持った他者との協働による教育の諸課題の解決を実践的に模索するプログラムとなっている。なお、現在は「学校生活支援」「医療と教育」「教育モラル育成支援」「ESD」「学習環境のデザイン」の5つの系が設けられている。修了審査基準を充足した者は、学部卒業時に修了証明書が交付される。本プログラムは2017年度より開始し、1期生が修了した2019年度から2022年度までの間に59名が修了している。

取得条件

本プログラムの履修要件を満たし、所定の単位数を修得して、系ごとに定められた修了審査基準を充足すること。基準を充足したものは、所定の申請書を学務係に提出することで卒業時に本プログラム修了証明書の交付を受けることができる。修了審査基準は以下の通りである。(1)「教育の現代的課題」科目群の展開科目は、原則として導入科目前半の課題提出後に履修する。ただし、当該科目を受講者が所属する専攻・専修の専門科目として履修する場合や、免許・資格取得のために履修する場合は、教育学部『学生便覧』に記載されている「教職に関する科目Ⅲ・教職に準ずる科目（別表Ⅰ-A6）」、「専攻専修別科目別表（別表Ⅰ-A7）」、「学部共通科目（別表Ⅰ-E）」で定められた年次が優先される。この場合は、本プログラムの履修登録願提出の際に履修済みの科目を申し出ること。(2)各系の定めるところにより導入科目2単位と展開科目6単位以上を合計して8単位以上修得する。展開科目の6単位には、他の系の2単位を含むことができる。(3)本プログラムの修了証明書の交付を受けるためには、原則として導入科目の履修を開始した学期よりも後の学期に、前号に規定された展開科目6単位以上のうち4単位以上を修得する必要がある。ただし、導入科目の履修以前に展開科目の履修をすることは妨げず、修得した展開科目の単位はすべて本プログラムの単位として認定する。(4)受講者が所属する専攻・専修科目を本プログラム履修科目とする場合は、2単位を上限として上記(2)号に規定する必要単位数8単位に含めることができる。

知識・スキル

社会の変化に伴って生じる、解決困難な教育の諸課題に対応することができる、教員としての資質・能力